

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                              |   |             |
|----------------|------------------------------|---|-------------|
| ○事業所名          | 児童発達支援・放課後等デイサービス ぱれっとおもしろまち |   |             |
| ○保護者評価実施期間     | 令和8年 2月 1日                   | ～ | 令和8年 2月 28日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                       | 9 | (回答者数) 8    |
| ○従業者評価実施期間     | 令和8年 2月 1日                   | ～ | 令和8年 2月 28日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                       | 5 | (回答者数) 5    |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年 3月 17日                  |   |             |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※) だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること  | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等  |
|---|--|---|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年2～3回の「保護者参観」を実施し、児童の特性に合わせた関わり方や環境づくりを実際に見ていただきながら、支援内容を丁寧に説明している。</li> <li>・保護者同士が気軽に交流できる「おもしろカフェ」を2～3か月に1回開催し、放デイ保護者の子育て経験が未就学児の保護者にとって学びや安心につながる場となっている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・参観や交流の機会を設けることで、保護者が事業所の支援を理解しやすく、関係機関との連携にもつながる環境を整えている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ペアレントトレーニング」や「保護者向け研修」の実施が望まれているが、現時点では事業所内で実施できる体制が十分ではないため、今後、実施に向けた体制整備を進めている。</li> </ul>   |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援計画を「特性理解・環境調整・関わり方の工夫」といった支援者側の行動として具体化し、全職員が実践しやすい形にしている。</li> <li>・個別支援計画を「スモールステップ」で整理し、いつ・だれが・何を行うかを明確にしている。</li> <li>・毎朝の職員会議で、児童の状態や家庭・学校での様子を共有し、その日の支援方針を統一している。</li> <li>・事業所内外の研修に積極的に参加し、支援の質向上に継続的に取り組んでいる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・参観や交流の機会を設けることで、保護者が事業所の支援を理解しやすく、関係機関との連携にもつながる環境を整えている。支援内容を職員全員が理解し、同じ方向を向いて支援できるよう、計画の構造化と情報共有を徹底している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の視点を「現在」だけでなく、子どもの将来像を見据えた支援へと広げていく。</li> <li>・職員同士が課題を気軽に相談し合い、自発的に問題解決に取り組める関係づくりを進めていく。</li> <li>・職員が療育について学び続ける意欲を高められるよう、個々の目標設定とフォロー体制を整えていく。</li> <li>・資格取得に向けて、事業所として必要なサポートを行える体制を構築していく。</li> </ul> |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた空間の中でも、目的に応じてエリアを分けることで、子どもたちが見通しを持ちやすく、集中しやすい環境を整えている。</li> <li>・「安心」「安全」を基本に、送迎や活動の場面では十分な職員配置を確保し、子どもが安心して過ごせる体制づくりを重視している。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの特性や活動内容に合わせて環境を柔軟に調整し、安心して過ごせる空間づくりを行っている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の児童が抱える「やりにくさ」について、環境の見直しで改善できる点があるという視点を大切にし、今後も環境面の工夫を積極的に進めていく。</li> </ul>   |

|   | 事業所の弱み(※) だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要と思われること  | 事業所として考えている課題の要因等   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等   |
|---|---|---|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子ども同士が自然に交流できる場が少なく、交流機会が限定されている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・徒歩圏内に「児童センター」などの自由に利用できる施設がなく、学校以外で子ども同士が関わる場が地域に不足している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の学童クラブとの交流について、利用児童の特性や発達状況を考慮しながら、どのような形で連携できるかを検討していく。</li> </ul>  |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子ども同士が自然に交流できる場が少なく、交流機会が限定されている。保護者向け研修のニーズは高いが、事業所独自で研修を実施できる体制がまだ整っていない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・徒歩圏内に「児童センター」などの自由に利用できる施設がなく、学校以外で子ども同士が関わる場が地域に不足している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の学びたい内容や困りごとを把握するため、アンケートや面談でニーズを丁寧に収集する。</li> <li>・外部研修機関や専門家と連携し、ミニ講座や座談会など、事業所内で実施できる研修形式を検討する。</li> <li>・小規模なテーマ別勉強会や情報提供の場を設け、無理のない範囲で研修機会を段階的に広げていく。</li> <li>・将来的には、ペアレントトレーニングの一部を事業所内で提供できるよう、職員の研修受講や体制整備を進める。</li> </ul> |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準は満たしているものの、スペースが基準ぎりぎり、活動内容や動線に工夫が必要な状況がある。</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・徒歩圏内に「児童センター」などの自由に利用できる施設がなく、学校以外で子ども同士が関わる場が地域に不足している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・限られたスペースでも安全に過ごせるよう、レイアウトの見直しや活動時間の調整を行う。</li> <li>・混雑を避けるため、個別支援や小集団活動を柔軟に組み合わせる。</li> <li>・必要に応じて、屋外スペースや近隣公園を活用し、子どもがのびのび活動できる環境を確保する。</li> </ul>   |